



# いきいき通信

140号（28年12月号）

iki iki - tushin

Take Free!

## 平成28年度水源の里対象集落合同会議を開催～田園回帰の時代～

11月25日（金）綾部市観光センターにおいて、平成28年度水源の里対象集落合同会議を開催。対象集落56自治会代表者のほか、各地区自治会連合会長、市議会議員など、約60名が参加しました。この合同会議は、水源の里事業における情報共有の場として、また今後の新たな取り組みにつなげていただくため、毎年開催しているものです。

今回は、講師に明治大学農学部の小田切徳美教授をお招きし、「田園回帰の時代～水源の里からの発信～」と題して講演いただきました。小田切教授は、首相官邸のふるさとづくり有識者会議座長のほか、総務省、農林水産省、国土交通省の委員なども務められています。

小田切教授は講演の中で、ボランティア活動をはじめ地域の中で実際に役割を得ている地域外の人たちが地域づくりに重要になっていることを挙げ、地域側も、その人たちに必ずしも地域への定住を求めず、また、地域にとっての目標を一段低く設定して地域振興に取り組んでいる他自治体の事業を紹介。「4泊5日のお試し移住」のほか、総務省の人的地域支援施策である「地域おこし協力隊」では、「応募者から将来計画や地域活性化への思いを発表、プレゼンテーションしてもらい、その応募者の希望と地域住民の希望を互いに理解した上で移住してもらうようにするとよい。」などのアドバイスがありました。

また、全国の都市部から農村部に移住する人（Iターン者）の約48%が、岡山県、鳥取県、長野県、島根県、岐阜県に集中していることを挙げ、これらの自治体がいずれも、住民自身が地域の魅力を高めていく『地域みがき』をしていること、また、このIターン者の多い5県は、Uターン者も増加傾向にあることが最新の調査で明らかになりつつあることを述べました。

小田切教授は、「独自の地域づくりを通じて「地域みがき」をする活動が、人を呼び込み、農山村に人が戻ってくる、『田園回帰』の好循環が生まれようとしている。」と話し、今後の水源の里事業の取り組みに大きな刺激を与えるものとなりました。

講演に引き続き、山崎市長と小田切教授との意見交換では、山崎市長が、事前に水源の里・市志、古屋を現地視察された際の印象を質問。

小田切教授は、「両地区とも、人がいきいきとされ、地域づくり（みがき）をされており、大変感銘を受けた。」と答えられました。

行政といたしましても、より一層「地域づくり」に対する支援の重要性を再認識し、大変有意義な講演会となりました。



意見交換では綾部市の取組が持つ全国的な意義、課題を議論

## 水源の里・市志しいたけ菌打ち体験講習会

12月3日（土）市志里山再生の会（阪田薫代表）は、交流拠点「どんぐりの森」の木材を使ったシイタケの菌打ち作業の体験講習会を実施。綾部市内を始め、京都市や福知山市などから15名が参加しました。

当日は天候にも恵まれ、長さ1m、直径1.5cmほどの「ほだ木」約50本分の菌打ち作業に取り組みました。普段は手にする事のないドリルを使用し、穴あけと菌駒の打ち付けを体験。参加者は、終始熱心に作業をこなしました。阪田代表によると、しいたけは1～2年後の秋ごろに最初の収穫ができるようになるということです。

親子で参加した小学生の梅本清乃さんは、ほだ木を大事に抱えながら「はじめての作業でおもしろかった。しいたけができるのが楽しみ」と話してくれました。



長さ2cmほどの菌駒を1本1本手作業で打ち込む

## 「第4回奥上林公民館大会」にて歴史と文化から学ぶ奥上林の未来

「共に集い・共に学び・共につながろう」をスローガンに、12月11日（日）奥上林公民館で「第4回奥上林公民館大会」（主催：奥上林公民館 三ッ谷館長）が開催されました。

綾部市史談会会長の川端二三三郎氏が「室町時代の上林荘」と題して講演され、奥上林は、綾部市内でも文化遺産が多いことや、この地域で（有安の）市場という地名の由来が、500年前の戦国末期に京都と日本海を結ぶ市場だったことなど、上林の長い歴史をわかりやすく解説されました。

続いて、綾部市資料館館長の三好博喜氏は「戦国の山城と奥上林の人々」と題して奥上林の文化財について講演。その中で「地域の歴史・文化財を知って、地域に自信を持っていただきたい。綾部から見ると奥になるが、綾部の中で一番京都に近いのは奥上林であり、洞峠を通れば、美山や京都へも簡単に行ける。」など、歴史・文化遺産からみた奥上林の地勢的な重要性を講演されました。

参加者からは、「改めて地域の歴史・文化を伝承していくことの大切さや、反面『活かしていく』ことの難しさも痛感した。」との感想もあり、奥上林の深い歴史とその活用に向けた貴重な示唆を得た一日となりました。



「光明寺以外にも貴重な資源がある」と話す川端氏

## 「中上林」「奥上林」の両地区で総合文化祭を開催

11月23日（水・祝）中上林、奥上林地区で総合文化祭がそれぞれ開催されました。

奥上林総合文化祭では、上林太鼓の演奏や農林産物の展示がありました。公民館内では、手芸品、絵画、木工などが展示され、来場者の関心を集めていました。2階の会場では、ハーブ、尺八、大正琴などの演奏や防犯漫談があり、会場は音色や笑いに溢れ、楽しいひと時を過ごしました。

中上林総合文化祭では、優れた農産物を披露する展示即売、上林小中一貫校の児童や住民らによる絵や生花等の作品が展示されたほか、舞台発表ではギターやハーモニカ演奏、民謡、よさこいなどが披露されました。またこの日初お目見えとなった上林太鼓保存会に属する小学生未満のグループ「座敷童子隊」が登場。会場が和やかな雰囲気でも包まれていました。



ハーモニー櫛(クヌギ)によるヘルマンハーブ演奏(奥上林)



発表の最後には座敷童子隊の初演奏も披露(中上林)

## いきいきセンターからのお知らせ

### ◎年末年始の業務について

上林いきいきセンターは**12月29日（木）から1月3日（火）まで休業**となります。**4日（水）から通常業務**となります。なお、バスの待合室側スペースは年末年始も通常どおりご利用いただけます。

本年もお世話になりました。来年もよろしく申し上げます。

